



加賀正太郎編 昭和21年 大版多色刷り
冬はパフィオペディアムの花の時期です。花持ちよく、家庭の窓辺でもよく育ちます。店頭での出会いをお楽しみに。

「蘭花譜」より パフィオペディアム Miss Louisa Fowler ver. magnificum

花かがみ

HANA-KAGAMI

発行人/小笠原 誓 発行所/名古屋園芸株式会社
〒460-0005 名古屋市中区東様2-18-13 tel.052-931-8701
http://nagoyaengei.co.jp/

'23 12

名古屋園芸

2024年 迎春飾り



世界ふれあい オーストラリア編

花歩き

Royal Tasmanian Botanical Gardens

小笠原 誓



巨大な樹形が美しい
ノーフォートマツ (Araucaria heterophylla)
ノーフォートノキやオーストラリア原産
ローンヒノキ (Chamaecyparis lawsoniana)
原産は北米西海岸



【スイレンの池】

耐寒性スイレンはまだ葉が数枚展開したところでしたが、池の周辺には巨大な葉のグンネラが存在感いっぱい育っています。日本でもよく植栽されるシャガやキショウブが可憐な花を咲かせています。

タスマニアはオーストラリア大陸の南東海上に位置するタスマニア島と周辺の島からなり、州都はホバートです。オーストラリア大陸とは海峡によって隔られています。面積は、北海道よりやや小さく、ホバートは札幌と同じくらいの緯度(南緯42.8度)になります。夏の平均最高気温は21℃、冬の最低平均気温は5℃で、温暖ではっきりとした四季をもちます。南半球なので訪問した10月は春になり名古屋の3、4月の気候でした。

王立タスマニア植物園はホバート中心部から2kmほど歩いていける距離です。タスマニアの涼しい気候の庭園で、オーストラリアで唯一の亜南極植物コレクションなど、数多くのユニークなコレクションがあります。合計14ヘクタールなので、オーストラリアの植物園としてはそれほど広くなくゆっくりと探索できます。

この植物園はホバート開拓の初期に設立されました。オーストラリアで最も古いシドニー植物園のわずか2年後の1818年に設立され、オーストラリアで2番目に古い植物園です。ホバートは1800年代初頭から入植がはじまり、街づくりの初期の段階から植物園の重要性を認識していた開拓者に敬意を表します。



私が最も興味を持たれたのはタスマニア原産のコレクションエリアです。多くの希少種や絶滅危惧種が植栽されています。フオンバイン (Huon pine, Lagarostrobos franklinii) はタスマニア州に自生する針葉樹の一種です。フオンバインは地球上で最も古い生物の一種です。生長は遅いのですが、長命の木で2000年を超えるものも多く、樹齢10,500年を超える木が1955年にタスマニア西部で発見されました。



アーサーウォール前に植栽されたクレマチス

【歴史的な加温用の壁 アーサーウォール】

1829年、当時のタスマニアのアーサー知事は、霜に弱い植物を保護し冬も果樹の成長促すため、加熱できる壁の建設を命じました。当時イギリスのキッチンガーデンで当時人気のあった暖房付き壁のスタイルに似ており、厚いレンガ造りの内部に熱風を送り、壁の厚いレンガと石の表面から熱をだす仕組みです。

しかし、実際にはこの地域は温暖でこの機能は不要であることがすぐにわかったため、数回しか加熱されませんでした。イギリスの厳しい冬とは対照的に、タスマニアの穏やかな気候は、人工熱を必要とせずに果樹が成長したのです。また壁のほとんどは北向きで、南半球は年間を通じて北から太陽が降り注ぎます。日中の壁を温め、夜は熱を放射するのでエキゾチックなフルーツ、特にオーストラリア初のパイナップルを栽培できるようになったそうです。世界で数少ない暖房用の壁の1つです。



【アリオギネ フェグリー Alyogyne huegelii】

オーストラリアの南西部に自生し、海岸線全体に広がっています。ブルーハイビスカスと呼ばれています。



【オーストラリア東部に自生する木性シダ】

ディクソニアアンタークティカ (Dicksonia antarctica)

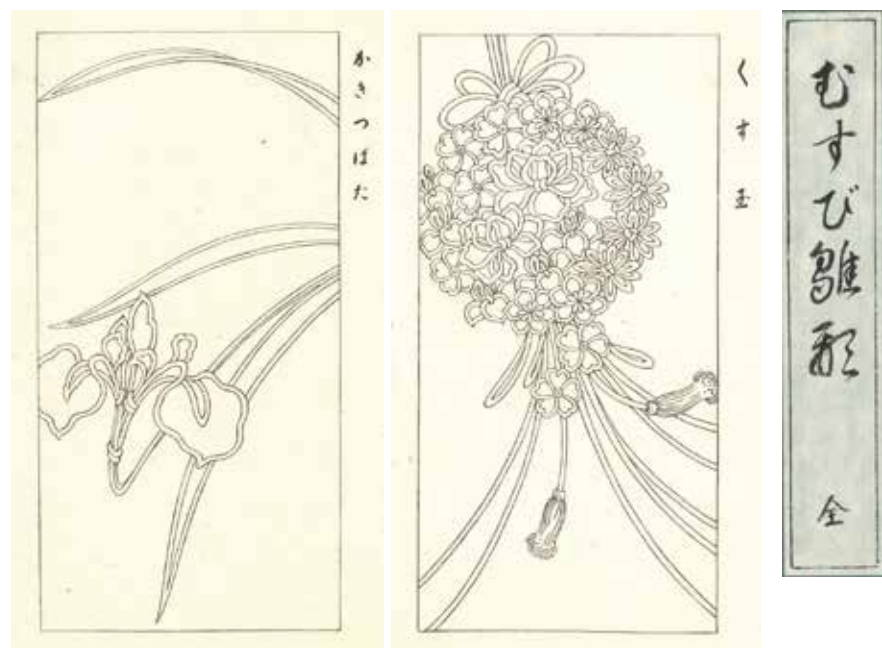
花の博物館 第335回

むすび雛形

一冊

河原崎英司編著
昭和十六年八月 芸艸堂刊

小笠原左衛門尉亮軒



むすび雛形 全

本書は和装本で、全二十六丁、五十二ページから成り立っている。通常、序文があるはずであるが、ただ結の名称のみ書かれている。各ページの右上にしか情報はなく、そのため、編集の意図も不明である。
しかし、このような「包み」、「結び」は本誌2016年11月号で「はなつつみ」が紹介したことからわかるように、包むことと結ぶことは日本固有の文化と思う。そのため、現在でも熨斗袋、特に慶事用の熨斗袋には凝った結び方が施される。当店では、結びの文化を尊重し、現在の時代のスタイルで進物の鉢植えや花束に心を込めてラッピングしている。
「包む」と「結ぶ」を実用から装飾用に変えたのは、奈良、平安の昔から始まり、特に室町時代に大いに発展したようである。この文化は小笠原流と呼ばれる礼法と共に栄えた。令和の時代においても、日本文化の一環として、「結ぶ」や「包む」を学び、現代風にアレンジすることは素晴らしいことだと思う。

参考書

「包結図説」上下二冊 安斎伊勢貞丈編集
天保十一年 京都静幽堂刊

「懸物図説」一冊 西村知備著
文化三年七月 版元、著者と同人か

「はなつつみ」一冊 芦田春寿著
明治四十四年二月 西村久吉刊
いずれも和装本です。

information

12月のオススメ講座・講座番号17
『和モダンを楽しむ お正月アレンジ』



1dayレッスン
12/23 (土) A: 9:30~10:20
B: 10:40~11:30

和の雰囲気漂う、迎春アレンジを作ります。松や千両などの伝統的な花材に、かわいらしい草花を合わせた「和モダン」なアレンジをお家に飾り、植物とともに「和」を楽しんでお正月を過ごしてみるのはいかがでしょうか。きっとワンランクアップしたお正月を過ごせますよ。

講習費: 1,100円 (税込)
材料費: 5,500円 (税込)
講師: 山田 幸子
持ち物: ハサミ

◇お申し込みは
花の講座専用電話 TEL: 052-937-3391
受付時間 月~金曜日 10:00~17:00
Webでのお申し込みは24時間OK!

名古屋園芸 | 検索

